

みんなで考えよう!

ジェンダーギャップ解消に向けて

2022年11月5日(土) 13:30~16:30

<会場> JA長野県ビル 12階B会議室 (受付 13:00)

日本はジェンダーギャップ指数が146カ国中116位と男女格差が大きい国とされており、都道府県版ジェンダーギャップ指数では、長野県は32位に位置しています。この格差は女性だけが努力して解消する問題ではありません。「男性らしさ」「女性らしさ」に捉われず、一人ひとりがいきいきと働き・暮らし、「自分らしく」人生を歩んでいけるように、みんなで一緒に、ジェンダーギャップについて考えてみませんか。

第1部：講演

テーマ：変化を起こせ!

ジェンダーギャップ32位の長野県に必要なことは

講師：三浦 まりさん (上智大学 法学部教授)



三浦 まりさん

《講師プロフィール》

専門はジェンダーと政治、福祉国家論、ケアと民主主義論。ジェンダーギャップの国際比較や国内の地域比較などを通じ、ジェンダー平等な社会を実現するための法政策、意思決定における多様性を確保するために、女性やマイノリティの政治参画やクオータ制、ケアに満ちた社会を構築するための民主主義のあり方について研究している。今年、3月8日「国際女性デー」にあわせ、「都道府県版ジェンダーギャップ指数」を発表。

第2部：パネルトーク／全体トーク

テーマ：ジェンダーギャップをなくすために私たちにできること

コーディネーター：三浦 まりさん

パネリスト：マキナリー 浩子さん

株式会社エー・トゥー・ゼット 創業者 (現相談役)

長野県経営者協会女性部会副部長

中村 雅代さん

小布施町議員

長野県男女共同参画推進県民会議顧問



マキナリー 浩子さん



中村 雅代さん

参加人数 50人 参加費 1,000円 (会場にて)

セミナー申込書 FAX 026 - 403 - 0071

QRコードからも
お申込みできます



お名前 (代表者氏名)		ご職業/所属	
参加人数	人	ご連絡先 電話番号	—

【主催】3.8国際女性デー 長野プロジェクト 【後援】パリテカフェ@信州実行委員会

TEL 070-4072-6641 (岩崎 恵子)

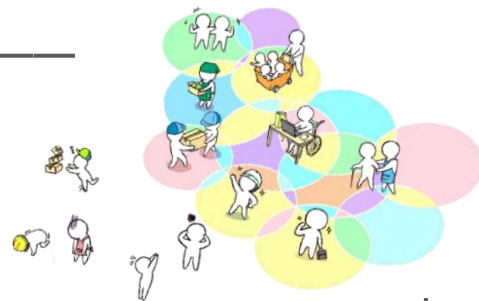
メール 3.kokusaijoseiday.nagano@gmail.com

※申込情報は本セミナー以外には使用致しません。※新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底し開催します。手指消毒、不織布マスク着用にご協力をお願いします。※体調が悪い場合は恐れ入りますが参加をご遠慮いただきますようお願い致します。

～この事業は長野県人権尊重社会づくり県民支援事業補助金を活用しています～

アンコンシャスバイアス・チェック

に チャレンジ!



あなたの中の”無意識の思い込みや偏見”をさぐってみませんか？
まずは「診断」にチャレンジしてみてください！



Q 下記の設問を見て自分に思い当たるものにチェック✓をしてください

(複数選択可) <計20問>

- 「親が単身赴任中」というと、父親を想像する(母親を想像しない)
- 体力的にハードな仕事を女性に頼むのは可哀そうだと思う
- お茶出し、受付対応、事務職、保育士というと、女性を思い浮かべる
- DV(ドメスティック・バイオレンス)と聞くと男性が暴力をはたらいていると想像する(女性を想像しない)
- LGBTの人は一部の職業に偏っていて、普通の職場にはいないと思う
- LGBTであると聞くと、戸惑いを感じてしまう
- こどもが病気になったときは母親が休んだほうがいいと思う
- 育児中の社員・職員に負荷の高い業務は無理とってしまう
- 介護しながら働くのは難しいと思う
- 病気治療しながら働いている人を見ると、仕事をやめて治療に専念した方が良いと思う
- 障がいのある人は、簡単な仕事しかできない、あるいは働くのが難しいだろうと思う
- 非正規雇用で働く人は、自分で望んで、その働き方を選択していると思う
- パートタイマーは、「主婦が家計補助のために働いている」というイメージがある
- 外国人労働者は日本の企業文化にあうのか、つい心配になる
- 外国人労働者を見ると、出稼ぎなど、一時的な滞在者だと思う
- 定時で帰る人は、やる気がないと思う
- 上司より先に部下が帰るのは失礼だと思う
- 「普通は〇〇だ」「それって常識だ」と思うことがある
- 年配(高齢者)の人は頭が堅く、多様な働き方への融通が利かないとってしまう
- 「多様性」と聞くと、全ての違いを、なんでも受け入れなければならないことだと思う

(出典：連合 HP より)

診断結果と解説は、当日セミナー会場にて